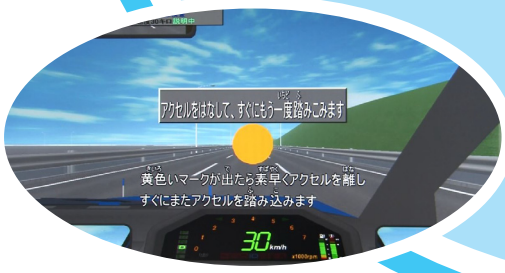
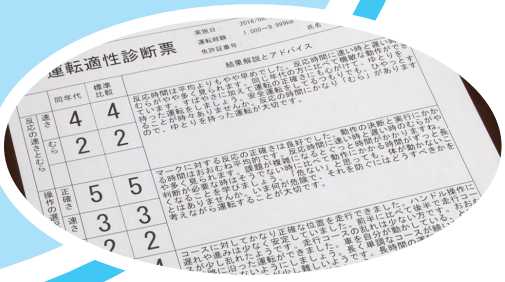
# ユーザーレポート ～0の証明～

# USER REPORT

## ▶ドライビングシミュレータ特集◀




東海電子株式会社

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

総合ロジスティクス

## 株式会社エムエスジャパン

# たとえシミュレータ上でも「事故を起こしたら恥ずかしい」。プロ意識を刺激された自らの体験が導入のきっかけ

大手衣料品量販チェーンを主要取引先として、埼玉から神奈川、岐阜、兵庫へとネットワークを広げる同社。アルコール検査義務化（2011年）以前からALC-PROⅡを導入するなど、安全対策に余念がない同社で、ドライビングシミュレータ導入の経緯や活用方法などを伺いました。

ご利用機器

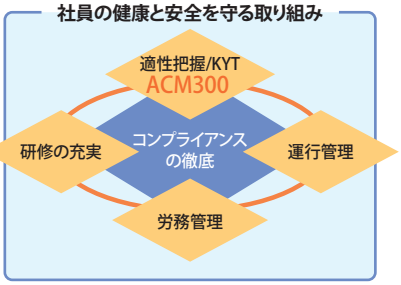
PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

好奇心

### 「普段ではできないこと」を体験させたら、意外にもみんな怖さが先走って…!?

辻永：当社がアルコール検知器ALC-PROIIを導入したのは、2008年のことでした。飲酒運転に関する法規制は、この先、もっと厳しくなるだろうという予測のもと、「であれば、今のうちに社内で制度化して慣れてしまおう」と取り組みを始めました。ちょうどその頃、デジタコも導入する計画でしたので、業務改革の一環という意味合いもありました。

東海電子さんとのお付き合いはそこから始まり、2016年冬のドライビングシミュレータ「ACM300」につながるのですが、印象に残っているのは東海電子さんの営業スタッフの話。デモ機を試した時、「制限速度50kmのところを100km出してみてください」なんて言うわけです。すると、私自身も他の社員（ドライバー）も、みんな制限速度すら出せない（笑）。事故の悲惨さを知っているがゆえ怖さが先立ち、プロして「事故を起こすのは恥ずかしい」という自制が働いたんだと思います。




このなんとも言えない不思議な感覚は、きっと安全教育にも活かせると直感しました。また、ゲーム感覚で取り組める点や、パソコン（モニター）やハンドルなどの機器がパッケージになっていて持ち運べる点も良いと思いました。


取材ご協力

株式会社エムエスジャパン
運輸部 部長　辻永 健一 様

〒347-0023
埼玉県加須市北辻141-1
TEL 0480-76-0801　FAX 0480-76-0802

現在は各営業所を一巡し、全員の適性診断をひととおり終えたところです。その結果を見ると、たしかにシミュレータの診断と実際の運転との間には、相関関係があるかもしれません。例えば、せっかちな傾向が診断で出た人は、実際の運転でもデジタコに記録される急ブレーキ・急発進の回数が多いなど。かといって、すぐに指導を行うわけではありませんが、タイミングを見て日常会話の中で注意を促したり、必要であれば所属上長と情報を共有するようにしています。

あえての厳しさ

### 硬軟織り交ぜた施策で士気をアップ KYTのツールとして活用していきたい

辻永：最近では、事故を起こしてしまったドライバーへの個別研修でもACM300を使うようになりました。当社では、惹起者に対してあえて徹底した指導を行っており、埼玉県トラック協会の研修に加えて、自社独自のプログラムを3日間連続で実施。一連の研修のうち、ACM300を最初に受けてもらい、運転上注意すべき傾向やクセなどをお互いに再確認していくところから始めています。「3日間も?」と思われるかもしれませんが、そこで妥協したら事故はなくせません。「事故を起こすと大変なことになる」「もう二度とこんな辛い経験（辛い研修を含む）はしたくない」と、心底思ってほしいと願ってのことです。

その一方、5年ほど前から、ドラレコやデジタコの評価を数値化し、毎月ベスト5に入ったドライバーに報奨金を出す制度も続けてきました。こうした硬軟織り交ぜた施策の成果か、ここ2～3年は評価が80点以下の社員はゼロ。100点をとるドライバーも毎月何名も出てくる状況が続いています。事故の件数も確実に減っており、上述のような惹起者研修の対象となるのは、年間で一人いるかどうかぐらいまでになりました。

ACM300の今後の活用については、まずKYTツールとして、というのを第一に考えています。各営業所で開く研修では、自社のドラレコから抽出した生の映像やデータを使っているのですが、そこにACM300も活かすなど、工夫の余地がありそうです。また、採用時に使うことも将来的には考えられますね。究極の目標である「事故ゼロ」を続けるとなると、これは非常に難しい。しかし、その目標をあきらめてしまったら成長はないので、これからも地道に安全対策に取り組んでいきたいと考えています。

取材後記

「普段ではできないことを体験させたい」という発想が何よりユニークだが、導入に至ったのは、経営陣の現場に対する期待や信頼あってのこと。「とくに安全に対する新しい取り組みには経営陣も積極的で、理解を得やすい」とのことだった。


※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

国際特殊貨物運送

## 株式会社ゴールド・スター

# 危険予知力を高めることが「唯一無二」の輸送を支える鍵。二歩も三歩も先を読めるドライバー育成に努めています

株式会社ゴールド・スターは海上コンテナや超大型精密機器など特殊貨物の輸送を専門に扱う輸送会社。保有車両のすべてにインターロックを装備するなど安全第一の運行体制を敷く同社で、ドライビングシミュレータがどのように活用されているのかを取材しました。

ご利用機器

ACM300

ALC-ZEROⅡ

### 導入のねらい　KYTのさらなる充実に向けて導入。一般診断への対応でも負担が軽減

津布久：海上コンテナ貨物や重量品・特大貨物の大型トレーラー輸送を専門に扱う当社の場合、代替えの利かない製品を扱っていることをドライバー自身が十分に認識し、それにふさわしい運転をすることが極めて重要です。もちろん重大な自責事故を起こしたことはありませんが、例えば低床トレーラーの場合、貨物を積んでいない状態では、並走する普通車の運転者がトレーラー部分を見落としがちです。つまり、自分の運転がいくら確かなものであっても、周りの車の動き次第でいつ接触事故につながるか分からない。だから通常のトラック以上に、二歩も三歩も先を読む目配り、気配りが必要なのです。

そうしたことから当社ではKYT（危険予知トレーニング）に力を入れ、2年ほど前から社員教育に採り入れてきました。半年に1回乗務員が受講するドライバー研修では、毎回異なる道路状況の写真を見ながら、その中に潜む危険箇所や対処方法をグループでディスカッション。その後、全体発表を通じて全員で共有するといった取り組みも行なっています。

このKYTをさらに充実させるために導入したのが「ACM300」です。

ドライビングシミュレータといえば、それまではGマークの一般診断時にトラック協会で経験する程度でしたが、自社にあればいつでも必要に応じて社員教育に活かせます。当社の場合、運行行程や貨物が日々変わるため予定を組むことが難しく、トラック協会に社員を出向かせる負担だけを考えても、この導入は大きなメリットでした。

### 二本柱の研修　「深く考え」、「とっさの時の自分」を体験。客観的な診断だから受け入れられやすい

津布久：「ACM300」を入れたからといって、座学研修が不要かといえばそれは違いますね。座学は“深く考える”もの。一方のドライビングシミュレータは“とっさの判断力”を養うもので、どちらも欠かせません。確かにシミュレータは実際のトレーラーと運転感覚がまったく違いますが、絶えず周囲の歩行者や車両などに気を配り、時事刻々と変化する状況に対応していかなければならないことは同じ。逆に、実際には起きてほしくないような状況もシミュレータ上なら経験できます。

さらに言えば、診断後にプリントアウトされる結果を見ながらの面談でも、第三者の客観的なデータだからこそ、自身の運転の傾向やクセを指摘されても受け入れられやすいようです。

先ほどKYTに取り組んでいるというお話をしましたが、安全については他にも安全対策会議や班長会議、点呼時教育、社外研修など14の項目を挙げて年間計画に取り組んでいるところです。今後、車両のバリエーションを増やし、より広いニーズに対応していく計画ですので、事業展開を支える意味でも、シミュレーション結果を他の安全教育に活かせるよう、多面的に活用していきたいと考えています。

**2016年度安全への取り組み（抜粋）**

- 安全運転・省エネ運転10か条の徹底
- ドライバー安全教育
- 安全対策会議
- 班長安全会議
- 点呼時教育
- 取引先開催の安全会議への積極的な参加
- 健康診断及び健康面の啓蒙
- 運行管理者 一般講習受講
- 社外研修への出席・活用
- 安全標語コンクールの実施

**取材後記**　クセや慣れを排除し独自の安全意識を根付かせるため、採用面でもあえて未経験者を歓迎する同社。「他の交通を妨げない気配りのできる運転こそがプロ」と津布久氏が語る通り、実際に取材で接した社員もみな礼儀正しく、温厚な人ばかりだった。


**取材ご協力**

**株式会社ゴールド・スター**

国際特殊物流事業本部
本部長　**津布久 崇** 様

〒244-0004
神奈川県横浜市戸塚区小雀町950
TEL 045-852-0661　FAX 045-852-0682

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

一般貨物運送

三協運輸株式会社

## いつでも使えるメリットを活かし、安全対策のさらなる拡充へ。課題の発見・共有だけでなく、人材採用にも活用しています

青森市を拠点に、北海道と首都圏をつなぐ長距離食品輸送から地場配送まで、総合物流事業を手がける三協運輸株式会社。東北エリアでいち早くACM300を導入した同社では、どんな変化が起き、どんな展開を考えているのか。3名それぞれの立場からざっくばらんに語っていただきました。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入のきっかけ 運用方法　安全管理の観点から「いつでも社内で使える」環境が最適と判断

小山内：当社は大手食品メーカーの長距離輸送や青森県内の地場物流を担っており、荷主企業の事業活動や地域経済を支えるためにも、安全対策の拡充は必須です。Gマークの取得・更新にも長年積極的に取り組み、適性診断（一般診断）については、青森県トラック協会の移動診断サービスを利用してきました。それが数年前に廃止されることになり、対応策を考える中で出てきたのが、自社でドライビングシミュレータを購入するという選択。自社内にシミュレータがあれば、直近の課題だけでなく将来的にも活かせる、という判断で、2015年秋にACM300を導入しました。

宇野：ACM300導入のメリットは、「いつでも社内で適性診断を行える」点にあります。そこで当社では、本社の一室に機器を常設し、法令で定められた一般診断だけでなく、最低年1回は全ドライバーに適性診断を受けてもらう制度に改めました。365日いつでも使えるようにしていますので、個々の判断で体調の良いときに受けられます。加えて、診断開始から結果が出るまで短時間で済む点や、一人でできる（＝受診者が集中しやすい）点もACM300の特徴であり、ドライバーの負担を軽くすることに役立っていると思います。

**いつでも使える環境**

シミュレータ（ACM300）自社購入

- 一般診断に係るドライバー負担の軽減
- 診断実施に向けた管理者負担の軽減
- 適性把握機会の増加（時系列的傾向把握）
- 課題の明確化と共有の促進
- 人材採用時の適性判断

### 累積効果と今後の展開　繰り返しの中で見えてくる個々の傾向。指導する側の目も養われる

三上：私は弘前営業所の所長をしておりますが、診断票の存在も大きいですね。客観的な評価が印刷されて出てきますから、指導時に話のきっかけを作りやすく、課題の共有もしやすい。その一方、2度、3度と診断を受けるドライバーも出てきて、これまでとは違う私自身の変化も感じています。

例えば、普段は温厚で堅実な運転をする人でも、診断結果を見ると、ある部分の点数が毎回低いということがあります。最初は機械に慣れていないせいかとも思っていたのですが、しばらくすると現場で実際に問題が起きたり……。どこが、というのは人によって異なりますが、ポイントを見極める指導者としての目が養われてきたように思いますね。

宇野：先ほど、最低年1回の診断というお話をしましたが、それ以外に当社では、人材採用の際にも応募者にシミュレータ診断を受けてもらい、参考にしています。経験者採用の場合、すでに自己流の運転に慣れてしまっている部分もありますから、そのクセを見直し、当社の安全に対する考え方を理解してもらうことにもつながるわけです。

小山内：ACM300導入や教育研修の充実の他、当社では一般道での60km/h走行の徹底といった独自の取り組みも行っていますが、現状で言いますと、完全に事故ゼロと言い切れないところが残念でなりません。とはいえ、事故損害の度合いは着実に小さくなってきていますので、さらなる安全対策の拡充を図っていきたいと考えています。

宇野：具体的に私が考えているのは、デジタコやドライブレコーダとの連携。日々の運行データで何か問題が見つかった場合は、シミュレータ診断に立ち返る…という流れで、これには気づきを促すねらいもあります。

三上：現場を統率する立場でいうと、シミュレーションによる診断ポイントを、もっと日常のアドバイスに活かしたいという思いがあり、「添乗指導」を行う計画です。指導というと堅苦しいイメージですが、願うのはプロとして信頼されるドライバーになってほしいということ。それが本人の自信や安心となり、成長にもつながりますから。

**取材後記**

ACM300導入に際して、取材中「ドライバーの負担を軽くするため」という言葉が幾度となく出てきた。確かに日々の業務による疲れや慣れない環境下での診断では、本当の適性が測れないおそれも。自社購入のメリットは、そんなところにもあると改めて感じた。


**取材ご協力**

三協運輸株式会社

専務取締役　小山内 久男 様

営業次長 運行管理者　宇野 博文 様

弘前営業所所長 運行管理者　三上 健次 様

〒038-0023
青森県青森市大字細越字栄山555番地1
TEL 017-739-1611　FAX 017-739-1612

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

食品運送

## 株式会社新鮮便

# Gマーク評価点に加え、“気づき”を促すシミュレーション体験。安全意識を根づかせる土壌作りに役立っています。

アルコール検知器だけでなく、東海電子では適性診断（一般診断）と危険予知トレーニング（KYT）ができるドライビングシミュレータ「ACM300」も取り扱っていることをご存知ですか？今回はこの機器を導入し、安全意識の醸成に役立てている株式会社新鮮便をご紹介します。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入の経緯　シミュレータ活用は自社では無理？それを可能にしてくれたのがACM300

大川氏：当社は24時間365日、3温度帯をカバーする食品全般の物流企業として、関東を中心に事業展開しています。全従業員の約6割にあたる400名余りがプロドライバーで、通勤に関してはほぼ100％が車を使用。そのため、運転時の安全指導は不可欠であり、15年ほど前から県警OBを安全対策課に専任登用するなど、事故防止に努めてきました。

ただ、従来型の安全指導では限界を感じていたことも事実です。ドライビングシミュレータを使った方法があることも知ってはいましたが、施設に行く時間やコストを考えると、24時間体制の当社では事実上不可能だと思っていました。そんな頃、東海電子のセミナーで「ACM300」のことを知ったのです。自ら体験した印象は、「これならゲーム感覚で危険予知や“かもしれない運転”の大切さを理解してもらえる」。プリンターを含めたオールインワンの可搬型という点は、拠点の多い当社には好都合で、Gマーク評価点になることも大きなメリットと感じました。

その後すぐに社長に上申し、役員へのデモンストレーションを経て2015年春に3台を導入。現在は、事務職を含めた車通勤者全員が年3回受診できるよう各営業所を巡回させ、適性診断（一般診断や安全教育）に活用しています。具体的には、仕事の合間や休み時間を利用してシミュレーションを行ってもらい、診断結果を付属のプリンターで出力。理解を促すため、独自に作成したKYT記入シートに今後の留意点も記入し、提出してもらっています。

### 結果の活用と導入効果　安全に特効薬はない。継続と工夫で安全意識の共有を促す

大川氏：操作に慣れないうちは、シミュレータ上で事故を起こしてしまう人もいました。しかし、それを直ちに危険とは判断しません。疑似体験なら事故を起こしてもいいんです。そもそもの狙いは、運転技能の向上ではなく、路上に潜む危険因子を知り、「かもしれない運転」の大切さを肌で感じてもらうこと。それを知り、現実社会で事故防止につながればいいのです。

では、診断結果をどのように活用しているかというと、一定基準を下回った社員については前述の安全対策課が面談を行い、安全意識を再確認するアドバイスを行っています。その際気をつけているのは、指導する側・される側という関係ではなく、あくまで支援者として働きかけること。年3回の診断が苦痛になってしまっては元も子もないですから、本人の安全のために…という相互理解の環境をつくることが大切なのです。「結果が悪いと給料が減るの？」と心配する社員もいましたが（笑）、もちろんそういったこともしていません。

まだ年次比較はできませんが、確実に事故は減ってきています。現時点では2割ぐらい減っており、実車搭載のドライブレコーダーで危険と判断される記録データも減少してきました。

安全対策に特効薬はありません。「ACM300」導入で安全意識を根づかせる新しい土壌はできたと思いますので、今後はそれを活かすべく工夫を重ねることで、安定した運行実績を積み上げていきたいと考えています。

**導入のメリット**

- ●これまでとは違った形での「安全」への動機付け
- ●Gマーク評価点（一般診断）

**（株）新鮮便での導入効果**

- ●事故の減少（概算で2割）
- ●ドライブレコーダーによる危険記録の減少

**取材後記**　同社では、代表取締役自らが安全教育の重要性を深く認識し、リーダーシップを発揮している。と言っても、それは一方的な押し付けではなく、社員に過度の負担をかけないよう運用面で工夫されており、ドライビングシミュレータの活用上、学ぶべき点が多いと感じた。


**取材ご協力**

**株式会社新鮮便**

業務管理部 部長
第一種衛生管理者　**大川 治郎** 様

〒379-2201
群馬県伊勢崎市間野谷町1-20
TEL 0270-62-8822　FAX 0270-62-8540

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

総合保険代理店

## 株式会社トップ

# 「give×5＆take」。すなわち、まず役立つ存在であること。その新しい施策のひとつがACM300の導入・活用です。

「総合生活・事業支援業」というコンセプトのもと、総合保険代理業の枠を超えて幅広い事業を展開する株式会社トップ。同社では、ドライビングシミュレータ「ACM300」を新たな顧客サービスのひとつとして位置づけ、事業の付加価値を高める活動に生かし始めています。

ご利用機器

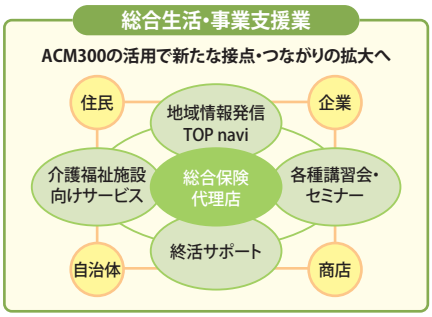
PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入のきっかけ　車を運転されるご高齢のお客様の安全・安心を願って

小池：「give×5＆take」は確かに聞きなれないことばかもしれません。しかし、これは私たちがもっとも大切にする企業理念です。当社は保険商品の取り扱いを事業の柱にしてはいますが、それだけではない。創業当初から、お客様にとって役立つことをまずやってみる、という姿勢を貫いてきました。つまり、まずは与えること。give、give、give、give、give、そしてその中で一つでもtake（いただけるもの）があったらいいよね、と。それを理念としてまとめたのが「give×5＆take」。さらに事業全体を「総合生活・事業支援業」とし、各種講習会・セミナーの開催や、介護福祉施設向けサービス、地域情報を発信するTOP naviなどにも取り組んでいます。それらも、まずはやってみよう。もう一歩踏み込んだ地域密着サービスを提供しようという思いから、生まれたものです。

そのような中でドライビングシミュレータに着目したのには、やはり高齢の方の事故が増えているという背景がありました。当社のお客様にも高齢になられた方がたくさんいらっしゃいます。その方々が運転するのに不安だなと感じた時にいつでも来ていただいて、シミュレータを通じて注意力を高めていただければ、というのがまずありました。

それに加えて、当社はこれまでにも企業様などの協力を得て、安全講習セミナーを開催してきており、そこでの活用も視野に入れていました。実際のところ、こうした車の安全運転に関連する講習会やセミナーは、あいおいニッセイ同和損害保険会社と自治体が主導する地方創生プロジェクトに、当社がACM300とともに協力する形でも実績ができ、社会とのつながりがいっそう広がった一例ともなっています。




みなさんに受講していただく内容では、純粋なシミュレータ体験というより、KYTプログラムをやっていただくようにしています。運送業に携わるプロドライバーであるか否かを問わず、KYTであれば、文字通り危険なポイントを疑似体験し、知ることができます。また、やっている人だけでなく、後ろでそれを見ながら待っている人も、どんなところに落とし穴があるか（笑）、気づきにつながっているようです。みなさん笑顔で楽しみながら挑戦していただけている点も、良かったと感じています。

### 今後の展開　私たちは地域や暮らしのかなめ役そこにACM300を役立てたい

小池：運用を始めて半年ほどで、ノウハウを蓄積している段階ですが、ひとつ新しい発展として考えているのは、Gマークに関連したサポートができるのでは、ということです。取引先の中には、Gマーク取得に向けて安全対策に力を入れているお客様もあり、「であれば、当社のACM300を使い、社員の安全意識を高めていきましょう」というご提案をしています。

その一方で、わたくし個人では、Gマーク取得・更新企業様の適性診断において、特定診断が行えるカウンセラー資格を取りたいと思い、準備を進めています。取得までの道のりはまだ長いですが（笑）、これがあれば、今よりももっと深くお客様との信頼関係を築けますから。

当社のように、様々な分野の事業サービスにどれも本腰で取り組んでいる業態は、保険業界の中でも希少な存在だと自負しています。個人、店舗、企業、自治体といった横のつながりを広げ、私たちの周りにいる方々の暮らしや企業活動がもっと良くなっていったら嬉しいですね。そのためにもACM300を有効に活用していきたいと思っています。

**取材後記**　運送物流に携わる企業や、自動車を使って営業活動をする事業者に使われているケースが多い中、顧客サービスの向上にACM300が役立てられている珍しいケース。「社会を支える砦」＝保険業らしい、新しい発想を同社に見たように感じた。


取材ご協力

株式会社トップ
サービスセンター　小池 一乗 様

〒433-8113
静岡県浜松市中区小豆餅1-32-9
TEL 053-439-0335　FAX 053-439-0338

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

総合警備業

## 株式会社 にしけい

# 暮らしの安心を守る大前提は、社会からの揺るぎない信頼。運転適性を見極め、事故ゼロの目標達成に役立てています

運輸業に携わる企業が「Gマーク」取得・更新の取り組みとしてドライビングシミュレータを活用する一方、Gマークとは関係ない業界でもACM300の導入が進んでいます。空港・港湾からオフィスビル・商業施設まで、幅広い警備サービスを提供する(株)にしけいの活用例をご紹介しましょう。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

選定ポイント

### 場所をとらず、コンパクトに収納できる。運転適性への気づきと把握に重点

吉本：当社は空港・港湾警備、現金輸送業務、オフィスビルや商業施設等の機械警備を主軸として事業を展開しています。なかでも現金輸送や機械警備に使う車両は460台余り、携わる警備員は1000名を超えております。その安全対策については、従来から様々な会議や研修の中で啓蒙・指導を繰り返し行ってきたのですが、やはり口頭指導だけでは浸透しにくいのではないか、と。一人ひとりの意識を高めるための新しいツールとして、ドライビングシミュレータの活用に着目しました。

選定の段階では一台1000万円を超えるような固定式の機器もありましたが、ACM300が何より良かったのは、場所をとらず、コンパクトに収納できる点。当社は九州各県だけでも30余りの拠点があるため、持ち運びができることで汎用性も広がります。多拠点での活用を考えると、やはりこのコンパクトさと持ち運べる点は魅力でした。

井下：現在どのように活用しているかというと、主に適性への気づきと把握に重きを置いています。例えば人材の採用に際しても、運転免許の有無だけでは、運転経験やクセまでは分かりません。そこで、各拠点からの要請に応じてシミュレータを貸し出し、車両を使う警備業務への適性判断の材料にしてもらおうという趣旨です。また、極めて残念ではありますが、中には事故に巻き込まれてしまう人もいます。そうしたときにシミュレーションを通じて自分の運転特性や適性を見つめ直し、後々の業務に活かしてもらう、といった使い方もしています。

意識の変化

### 「適性」を共有し安全意識を促す繰り返し働きかけていくことが重要

那川：運転特性を共有できるというのはスタッフを管理する上でもとても重要で、支社の幹部に向けて、適性を把握した上でのケアをしっかり行うようお願いしています。例えば車両出発前の声がけなども、クセや特性が分かっていれば一人ひとりに応じて工夫できます。実際のところ社員ごとの事故再発率はゼロになっており、これは導入の効果だと思っています。

井下：実際にシミュレータを経験した社員からも「いいきっかけを作ってもらった」、「自分の技能を過信していた」、「運転が得意だと思っていたが、そんな自分を見直すきっかけになった」等の感想が寄せられていますね。

吉本：私のほうでは適性診断の結果をデータ化し分析しているのですが、終業間際の事故リスクが確率的に高くなっていることが分かりました。疲れが一番ピークになっている時間帯であり、これは今後の指導に役立てていく課題だと認識しています。また、今は「業務中の安全」への取り組みが中心ですが、ゆくゆくは通勤時や仕事以外での運転も視野に入れて、教育・啓蒙活動の幅を広げていけたらと思っています。シミュレータの良さは、車の運転そのものに潜む危険性や自身の特性を、頭ではなく体で理解してもらえる点ですので、それをどう活かすか構想中です。

那川：当社にとって最も大切なのは「社会からの信頼」です。業務上、車は社会の安心・安全を守るために不可欠なツールですが、その使用によって事故が起きてしまうというのは、あってはならないこと。今日まで無事故だからといって、明日も無事故である保証はどこにもありません。シミュレーターを使った疑似体験を含め、繰り返し、繰り返し働きかけをしていくことが重要だと考えています。

取材後記

安全教育・対策の拡充を進める一方、同社では無事故者への報奨金制度も長年続けている。車両を使う警備業務に従事し、2年間無事故だった従業員が対象で、年2回実施。毎回報奨金を受けとるスタッフは、平均百名程に達するそうだ。


取材ご協力

**株式会社にしけい**

管理本部 部長 **那川 雅弘** 様
営業本部 営業企画部 係長 **井下 知也** 様
管理本部 係長 **吉本 和博** 様

〒812-8530
福岡県福岡市博多区店屋町5-10
TEL 092-281-8500　FAX 092-281-8573

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

貸切・観光・乗合バス

日本観光グループ

# 「安全教育対策課」が全方位で安全管理や教育を担当。ACM300も適性診断結果も「活かす」ことが何より大切

物流トラック業界を中心に活用企業が増えてきている「ACM300」。その裾野は、バス業界へも広がりつつあります。貸切・観光バスを主軸とする日本観光（株）と高速乗合バスを受託運行する日本高速バス（株）を擁する日本観光グループに、導入のきっかけや活用方法を伺いました。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

## 導入のきっかけ 運用方法　適性診断に出向く時間と労力をカット「自社」だからできる柔軟な活用方法

竹綱：安全に関する取り組みの転機は、やはり2011年に貸切バス事業者安全性評価認定制度（セーフティーバス）ができた頃でした。当社ではまず、「安全教育対策課」という独立した専門部署を設け、外部機関と協力しながら講習・研修の拡充に着手。ドライビングシミュレータによる適性診断も当時から続けているのですが、こちらはNASVAに出向く必要があり、しかも予約制で、乗務員の時間的負担や管理する側の労力が、課題の一つになっていました。ACM300を導入した理由は、まさにそれです。自社にあればいつでも使えますし、お互いに助かるな、と。

丸山：当社（日本高速バス）はWILLERグループの高速バスを受託運行しており、それもひとつのきっかけになったと思います。複数ある受託会社が、互いの事故事例や統一ルールを共有し、切磋琢磨していますから、いい意味で、外からの刺激が安全対策の拡充を後押したということですね。

竹綱：ACM300の運用面では、運輸安全マネジメント制度に則ったかたちで年1回の検査が基本。もちろんこれは最低ラインで、事故の惹起者に対してはその都度実施し、再発防止に向けた助言・指導を行なっています。

また、新乗務員採用時の適性把握にも利用していますが、これは初任診断とは別の、自社独自のものです。新しい乗務員は入社時の研修を経て、側乗指導に移るわけですが、シミュレータ上でのクセや結果と実際の運転のしかたに、ある程度、関連性があるように思いますね。例えばウインカー操作とハンドルを切り始めるタイミングなど、シミュレータ上での操作が指導上の参考になることもあります。

丸山：では、肝心の事故発生数はどうかというと……。実はこうした安全対策の拡充に取り組むにあたって、当社では事故として扱う基準を相当厳しくしました。それまでは、車両どうしがぶつかって初めて事故だとカウントしていたものを、車道に伸び出た木の枝に軽くこすっただけでも事故としてカウントするぐらいに厳格化。そのため、件数だけを見ると数は減っていません。ですが、事故の程度でいうと、極軽度のものが圧倒的。全体的な印象で言うと、安全体制は向上してきていると思います。

竹綱：軽微なものまで報告するということは、乗務員たちにとっていやなものですよね。ただわれわれとしては、事故の報告自体を責めるつもりは毛頭ありません。そこまでする理由は、やはり安全意識をもっと高め、実際の運転も事故ゼロに徹してほしいから。何が原因かをお互いに考える中で、ないがしろにしていた部分に気づいてほしいですし、われわれにとっても、新しい対策を考えるヒントになります。

**日本観光グループの主な安全対策**

- 24時間の乗務員サポート
- 遠隔地におけるIT点呼活用
- 健診（年2回）SAS検査実施
- 安全コンテストへの積極的参加
- ドライブレコーダーに基づく安全指導
- アクティブアテンションアシスト導入
- 先進安全自動車（ASV）の導入
- 乗務員への安全教育拡充
- ドライビングシミュレータの活用

安全教育対策課がグループ全体を主導

## 今後の展開　ドライブレコーダーとシミュレータでより中身の濃い研修プログラムを

竹綱：安全教育対策課では、日本観光グループ全体で約60名いる乗務員それぞれと、2～3ヶ月ごとに面談しており、それらの結果は、適性診断の内容を含めて記録に残し、できるだけ継続的に個々の状況を把握するようにしています。その中で、ACM300の利用頻度を増やすことは、乗務員自身が危険予知の重要性を再確認し、視野を広げる意味でも大切なことだと思いますね。今後の活用方法としては、ドライブレコーダーの映像を使った講義と、ACM300による体験を組み合わせることで、リアルな研修プログラムができるのでは、と考えています。

**取材後記**　バスの乗務員は、運動不足になりがちで、「食べる」、「寝る（乗客が観光している間の待ち時間など）」に生活が偏る傾向が高い、とのこと。そのため安全教育対策課では、安全対策と同時に、乗務員の「健康」を守る施策にも取り組んでいるそうだ。


**取材ご協力**

日本観光株式会社
安全教育対策課 課長　竹綱 利行 様

日本高速バス株式会社
取締役　丸山　実 様

〒597-0093
大阪府貝塚市二色中町6-6
TEL 072-422-2311　FAX 072-422-2411
（日本観光株式会社）

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

一般貨物運送

■ 丸文運輸株式会社

## じっくり時間をかけて「危険予知」と取り組むのに最適。表彰制度との組合せで社員のモチベーションがアップ

東北⇆関西の長距離輸送を柱とする丸文運輸では、増加する輸送ニーズに応えるため人材の採用・育成が課題。そんな中、ドライビングシミュレータ「ACM300」を機に新しい希望の芽が生まれているそうです。父親から同社を受け継ぎ奮闘する代表取締役　荒井雅仁氏に伺いました。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入のねらい　中高年乗務員は機械が苦手。だからこそじっくり経験できる環境を

荒井氏：当社では現在25名のドライバーが在籍しており、その大半が40歳代以上のベテランです。他社さんもおそらくそうだと思いますが、こうした経験豊富な社員ほど、新しい機械を使うことに抵抗を感じたり、苦手意識が強いのではないでしょうか。

私も導入検討時にその点をまず考えました。「慣れるまでじっくり時間をかけて取り組める環境を用意したい」。本当の意味で個々の特性を把握し安全な運行に役立てるには、そこが大事だと思ったんです。また、長距離輸送という特性上、平日に社員を集めて一般診断を実施するのは難しく土日しかありません。認定機関までの距離も問題でした。

こうしたことを総合的に考え、今年2月にACM300を購入したのですが、実はその1ヶ月ほど前から社内表彰制度もスタートさせていました。安全運転をすればあなた自身にも“得”がありますよ、と。シミュレータに不慣れなゆえに最初はうまく操作できない人でも、繰り返すことで次第に慣れていきます。それは単に機器操作に慣れるということではなく、危険予知のポイントを繰り返しドライバー自身が覚え込んでいくことでもあるのです。

「ACM300」と「表彰制度」、このふたつの施策が功を奏したのか、今年に入ってから無事故記録がさらに伸び、福島県警等が主催する「優秀安全運転事業所」表彰を3年連続で受けられそうです。無事故による各種保険の割引など、経営上のコスト削減効果も期待できますね。

### 予想外の波及効果　社員同士の微笑ましい光景。取引先との信頼関係深化にも貢献

荒井氏：私自身驚いているのは、新人が入社した時など、社員たちの面倒見が良くなったことです。運転技術だけでなく荷下しの仕方を丁寧に教えたり、日常の雑談を見ていても「お互いに安全に気持ち良く仕事をしよう」という雰囲気が生まれてきたように感じます。また、東日本大震災での教訓を活かし、当社では交通障害発生時でもすぐに本社からサポートできるよう、デジタコをクラウド型GPS機能付のものに切り替えました。「どこにいても一人ではない」という安心感も社内の人間関係にいい影響を与えているのかもしれません。

ACM300の活用
- Gマーク一般診断
- 個別KYT（数ヶ月に一度）
- 安全講習会（月1回）

社内表彰制度
- 年2回表彰（表彰金あり）

↓

無事故記録更新

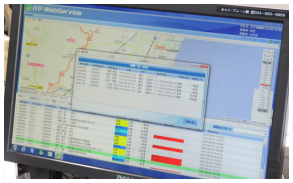
↓

取引先からの信頼➡業績UP

コスト削減（車両維持コスト、保険コスト等）

ある時、取引先の方が突然監査で来社されたのですが、ACM300やデジタコの運用体制をご説明したところ、より深く私たちの安全に対する取り組みをご理解いただくことができました。まさに百聞は一見に如かず。具体的に見ていただけるものがあると納得の度合いが違いますね（笑）。

おかげさまで取扱量は増加しており、今後はいかに人材を確保し、育成していくかが重要だと認識しています。特に若者層の経験者は非常に少ないため、安全教育の第一歩としてACM300を今まで以上に活用していく考えです。ただ「やれ」で人が動く時代ではありませんから、設備、制度など多面的に社員をサポートする体制を整え、誇りを持って当社での業務に取り組んでもらえるよう、努力していきたいと考えています。



取材後記　20年ほど前までは和食職人だったというユニークな経歴を持つ荒井氏。後継のため入社した当初、父親からは「背中に聞きながら運転しろ」と教えられたのだとか。その真髄は「積んでいる荷物に絶えず気を配り、大切に運べ」。「安全」の核心を突く名言にも聞こえた。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

取材ご協力

丸文運輸株式会社

代表取締役　荒井 雅仁 様

〒961-8061
福島県西白河郡西郷村
大字小田倉字稗返151
TEL 0248-25-5555　FAX 0248-25-5562

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

廃棄物回収

■ 有限会社吉田組

## Gマーク（一般診断）の社内化でコスト削減と高評価を実現。プロ意識を育てながら「完全事故ゼロ」をめざしています。

有限会社吉田組は、東京都小平市・東大和市の委託を請け一般廃棄物の収集を手がける企業。社員数39名と小規模ながらドライビングシミュレーションをはじめ、数多くの安全対策を講じ効果を上げています。今回はそのきっかけや安全への取り組みを取材しました。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入のねらいと効果　小規模ながら導入を決断。過去最高のGマーク評価を取得

吉田氏：　「ACM300」を導入した一番の理由は、Gマーク更新時の適性診断（一般診断）が社内でできる点。導入前は社外の専門機関に社員を行かせていましたが、「交通費+診断料+公休扱い（半日）」×従業員数となると、少人数とはいえ負担は軽くありません。当社の規模、業態に合うかどうかなど、東海電子の担当者からも様々なアドバイスをもらい、2015年6月に導入しました。

当社ではシミュレータ導入を機に、一般診断の指導を適正に行うため、NASVAの「適性診断活用講座」も3名の安全運転管理者が受講しました。彼らが業務状況を見ながら、時期を見て該当する社員に適宜呼びかけ、シミュレーション診断を実施。診断票も単に渡すのではなく、良い点は青色、注意点はオレンジのマーカーを使って色分けし、一目で診断結果が分かるようにするなど工夫しています。

この一年を振り返ると、本社と東大和事業所の両拠点とも軽微な車両損傷を含めて事故件数が激減し、特に東大和事業所は、通年でゼロ記録を更新しました。さらに昨年末のGマーク更新では、99点と過去最高の評価をいただき、私たち自身、非常に驚いています。

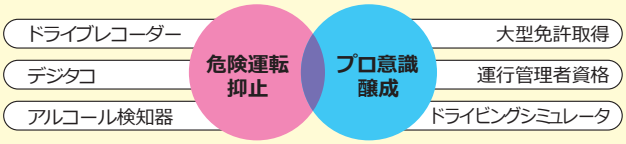
### 安全対策の2本柱　「抑止力」と「プロとしての自覚」両面から講じる安全対策

吉田氏：正直な話をすると、十数年前、知り合いの会社経営者から「おたくの車は逆ハン切って角を曲がっていく」と指摘されたのが、危機感を深めるきっかけでした。家庭ゴミの収集は、限られた時間の中での業務なので、どうしても気が急かされがちです。しかし、市の委託を請け、町の衛生環境を守ることが仕事なのに、住民の皆さんを不安にさせるような運転が許されるはずがありません。そこで13年ほど前にドライブレコーダーを導入し、7年前にはデジタコも取り付けました。現在、ドライブレコーダーはほとんどの車両が前方、車内、左後方、後方の4カメラで、記録映像を社内外の勉強会に活かしています。また、アルコール検知器も義務化の1年前には導入を完了。これらは自分の運転や業務への姿勢が常に見られているという「抑止力」として作用し、一定の効果を上げてきました。

その一方で当社では、4t車が主流だった時代から大型免許や運行管理者の資格取得も奨励してきました。狙いは「プロとしての自覚」を根付かせること。「資格者が事故を起こしたら恥ずかしい」といった意識が自然と生まれ、今ではドライバーの約半数が運行管理者の資格を取得しています。

幸いなことに、当社は勤続34年の大ベテランをはじめ離職率が極めて低く、「1日たりとも市民サービスを止めてはならない」という強い意識を自治体とも共有しています。現在は一般車用のドライビングシミュレータを使用していますが、先般、中型・大型車用の新機器をデモ体験したところ、より当社の車両に近い運転視野や危険予知ポイントが含まれていることが分かりました。すでに導入を決めていますので、本社だけでなく東大和事業所とも連携し、さらに効果的な活用を図っていきたいと考えています。

**吉田組の「安全」を支える2つの柱**




取材後記　昭和初期から親子3代で廃棄物回収業を営んできた同社。年3回開く全社懇親会だけでなく、日頃も食事に誘うなど、代表者自ら社員と家族のような付き合いを心がけており、こうした点も安全意識の共有や自発的な心がけを育むのに深く役立っていると感じた。


取材ご協力

**有限会社吉田組**

代表取締役　**吉田 登** 様

〒187-0041
東京都小平市美園町1-1-2
TEL 042-341-2932　FAX 042-345-2494

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

ユーザーレポート

# User Report

～0の証明～

貴重品輸送

■ ALSOK 警送近畿支社

## ドライバーの「心身の変化」対策にACM300を導入。部署の垣根を超えて、活用への関心を集め始めています

ビル・建物の警備から高齢者の見守りまで、様々な形で社会の「安全・安心」を支えるＡＬＳＯＫ。企業・店舗の貴重品を管理・輸送する警送部門（警送近畿支社）では、ドライバーの加齢に伴う自己注意喚起にACM300をご導入いただいています。

ご利用機器

PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

### 導入の背景　福岡勤務時代に「IT点呼」導入。その効果を踏まえた、警送近畿支社での新たな取り組み

柏原：以前私が福岡にいた時に東海電子のIT点呼を導入し、「きちんとした機器を使う」ことでドライバーの意識が変わることを実感しました。旧来の簡易的なアルコール検知器よりも、測定結果が正確でごまかしがきかない。そして結果が印刷されて残る。すると「検査しているという意識」がドライバーに芽生え、「勤務前日はアルコールを控えよう」といった動きが生まれたのです。その後、異動した警送近畿支社でも同機種を導入しました。先日東海電子のセミナーに参加したときに、また新たな衝撃が。ACM300のデモを見て、普段は絶対に経験してほしくない交通事故を疑似体験できる。やはり座学だけで一方的に聴くよりも、実際に体験して学ぶことのほうが大きいはず、とすぐに上司に導入提案を行いました。

多田：ちょうどその頃、軽微な車両接触が数件続いたこともあり、調査してみると、ドライバーの多くが50歳代というのが気になりました。加齢に伴う心身の変化を理解せず、若い気持ちのまま運転しているのではないか、と。

そこでACM300導入を機に、50歳以上は毎年ACM300による診断を受けてもらうよう社内制度を改めました。

「いかに自分の反応速度が鈍ってきているのか気づいてもらおう」というねらいです。警送近畿支社の場合、50歳代の比率はまだ高くありませんが、今後増えていくことは予想されますから、長期的予防策の一環でもあります。

導入のねらい：加齢変化への気づき・自己把握

工夫点：3名一組での受講（仲間とともに体験を通じて学ぶ）

副次的メリットと今後の展開
- 一般診断社内実施：社員の負担軽減
- 他拠点での活用（持ち運べる利点）

### 工夫点と今後の展開　3名一組で他者の運転からも学ぶ 定期的な疑似体験で安全意識の醸成を

柏原：適性診断とは別に、危険予測トレーニング（KYT）にもACM300を活用し始めています。当社の場合、30～40名で編成される「隊」ごとに指揮系統が分かれており、各隊長からの指名を受けて3名一組で実施。一人ずつ順番にハンドルを握って運転し、他の2名は大型スクリーンでその映像を見る、というスタイルで行っています。企画者の立場で言うと、「トレーニングだからぜひ事故に遭遇し、危険因子を肌で感じてほしい」というのがあります。ですので受講前に伝えることは、普段とは真逆ですが「アクセルをしっかり踏んでください」。実際に事故の場面では、他の2名からも驚きの声が上がり、研修後は「経験できてよかった」と言ってくれます。仲間と楽しみながら疑似体験することで、「何が大切か」に気づいてほしい。それが願いですね。

多田：今はまだ警送部門内が中心ですが、営業部門などからも「ぜひ使わせてほしい」という声が上がり、少しずつ実績も出始めてきています。

柏原：運転技能の変化は加齢に関係ない部分もありますから、年齢に関係なく、できるだけ定期的にACM300を使えるようにしていければと思っています。自分では気づかない変化を数値で把握できるようになれば、個々の意識もまた変わってくるでしょうし。

もちろん今後は、他の拠点に持っていき、そこでも安全対策に役立てていく予定です。持ち運びができるのもACM300の利点ですから。

**取材後記**　ACM300導入前、適性診断（一般診断）は休日出勤扱いで社外の機関に出向かせていたとのこと。社内でいつでも受診できるようになれば、社員の「休日」を確保することにも繋がる。柏原氏の上司はそこにも大きな期待を寄せているそうだ。


**取材ご協力**

ＡＬＳＯＫ　警送近畿支社

警備第一部長　柏原 重雄 様

警備第三部長　多田　真 様

〒537-0001
大阪府大阪市東成区深江北3-8-23
TEL 06-6976-1100　FAX 06-6976-7755

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

# ユーザーレポート　～0の証明～

# USER REPORT